

- 1－1 生涯学習推進環境の充実
- 1－2 社会教育施設等の整備・充実
- 1－3 学習成果の発表と活用
- 2－1 健全育成活動等の推進
- 2－2 安心できる地域社会の実現
- 3－1 個性あふれる芸術文化の創造と継承
- 3－2 将棋によるまちづくりの推進
- 4－1 文化財の保護と活用
- 4－2 郷土芸能の保存と継承

Ⅲ

社会教育の 現状と課題、 今後の展開

基本方針1 豊かな人間性を育む生涯学習の推進

重点目標1-1 生涯学習推進環境の充実

< 現状と課題 >

社会教育団体等への活動支援

それぞれの団体が自主的な活動・運営が図られるように補助金による助成、あるいは課員による活動支援等を行っており、各団体ともに創意工夫しながら活動に取り組んでいます。

青年団

一般の若者がなかなか集まらない中で、役場の若手職員が中心となりボランティア活動や各種事業等を展開しているものの、今後の青年団そのもののあり方が課題となっています。

ワイワイ講座

講座の活用がある年とない年がありますが、公民館講座等の学習機会を通じて学習グループができ、継続的で自主的な学習活動ができるように、さらにワイワイ講座を周知し活用してもらうように取り組む必要があります。

公民館事業（講座）

現代的課題に対応した学習機会の充実を図ることを目的に開催している公民館講座では、全26講座（述べ158回）で1432人が参加し、受講者の反応も良好でした。特に料理教室などは好評で、食や健康に対する受講者の関心が高いことが伺えます。若い世代や初めての方も気軽に参加できるようなメニューの設定や、周知方法を工夫する必要があります。

図書館事業（講座）

幼児・児童を対象に紙芝居や絵本の読み聞かせを通じ、読書への興味を喚起することができました。また、乳児を対象にした読み聞かせや「大人のためのおはなし会」を実施し、子どもを抱えた母親等に対しても読み聞かせの指導効果がありました。子どもの成長過程において、読書活動が言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、更に創造力を豊かにするうえで大切であることを親に理解してもらうための手法を検討する必要があります。

ふるさと学習塾

成人期の学習機会の目玉事業として、公募によって組織される運営委員が主体となり事業を展開しています。限られた財源の中で、4人の講師陣の中に地元（県内）講師の人材活用を行うなど、経費節減に努めています。受益者負担の考えから平成25年度から一講座限定で、受講料500円を徴収しましたが、この部分を含めて今後のふるさと学習塾の方向性について、受講者の反応等を参考に、引き続き検討していきます。運営委員をはじめ、協力いただける人が特定される傾向があり、今後は、その活動内容を含めて運営委員（会）のあり方についても検討が必要です。

出前講座

高齢者の健康や福祉に関するもの、防災やごみの減量に関する講座、その他軽スポーツや昨年度完成した「おいらせ音頭」の振付講座など、年間64回の講座が行われました。また、小・中学校の体験学習等を含めて、年齢や団体の種別を問わず活用されています。人気があり年に数回実施している講座や、数年に1回の講座もありますが、引き続き、新たな分野や人材発掘のための情報収集をしながら、人材バンクと連動した出前講座として町民の学習ニーズに対応していく必要があります。

放課後子ども教室

放課後児童健全育成事業と放課後子ども教室推進事業が連携し、放課後子どもプラン運営委員会を開催したことで相互理解がなされました。町内の児童館・子ども教室等の指導員を一堂に会して実務者研修を開催し、講演、ワークショップを行うことにより、学びの場を提供するとともに指導員同士の交流にも繋がっています。放課後子どもプラン推進事業は、平成19年度から始まった事業で、地域社会の中で放課後に子どもたちが安全で安心して健やかに育まれるよう、「放課後児童健全育成事業（厚生労働省）」と「放課後子ども教室推進事業（文部科学省）」が連携して実施するものですが、両事業の趣旨や対象年齢、運営形態等が異なるため、連携に向けた調整が必要です。また、勤務形態が不規則なことによる指導員不足や指導員の高齢化も問題となっています。

家庭教育支援

乳幼児家庭教育学級、小中学校家庭教育学級は、母親の参加だけでなく、父親の参加も年々増えています。今後、子育てなどで本当に悩んでいる親が気軽に寄ることができる場所を設け、情報発信、親や地域の人に向けての学習などを継続していくことが必要です。

< 方向性 >

- 生涯学習推進組織の機能の強化を図るとともに、各種団体との連携強化を図ります。
- 指導體制の充実のため、指導者及び職員への研修の充実を図るとともに、社会教育団体やボランティアの自主・自立した活動を推進し、そのための支援を実施します。
- 「一人ひとりの学習と社会参加の実現を支援する」という考えのもと、多種多様な講座などにも対応しながら、住民一人ひとりの意識の向上を図ります。
- 家庭教育支援の充実を図るため、青少年期、成人期、高齢期それぞれの時期での学習機会の充実を図ります。
- 未来をたくましく生き抜く、次代を担う子どもの育成を図るため、自然や芸術文化などの青少年体験活動について検討します。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①各種団体との連携強化	社会教育委員会議	→	→	→	→	→
	上北地方社会教育連絡協議会	→	→	→	→	→
	公民館運営審議会	→	→	→	→	→
	図書館協議会	→	→	→	→	→
	あいさつ運動連絡協議会	→	→	→	→	→
②社会教育団体等への活動支援	青年団	→	→	→	→	→
	連合婦人会	→	→	→	→	→
	子ども会育成連合会	→	→	→	→	→
	文化協会	→	→	→	→	→
	女性教室開設補助	→	→	→	→	→
	◎ワイワイ講座	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
③多種多様な学習機会の充実と人材育成	乳幼児英会話教室巡回指導	→	→	→	→	→
	◎公民館事業（講座）	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	図書館事業（講座）	→	→	→	→	→
	各種教室	→	→	→	→	→
	高齢者教室 （ほがらか教室との連携）	→	→	→	→	→
	◎ふるさと学習塾	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	◎出前講座	→	→	→	→	→
	生涯学習人材バンク	→	→	→	→	→
	生涯学習情報提供	→	→	→	→	→
	◎放課後子ども教室	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	◎青少年体験活動		➡	➡	➡	➡
	各種研修等への派遣費補助	→	→	→	→	→
	職員の専門研修会への派遣	→	→	→	→	→
④家庭教育支援の充実	◎乳幼児家庭教育学級	→	→	→	→	→
	◎小中学校家庭教育学級	→	→	→	→	→

※展開内容：→…継続実施 ➡…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針1 豊かな人間性を育む生涯学習の推進

重点目標1-2 社会教育施設等の整備・充実

< 現状と課題 >

大山将棋記念館の運営

大山将棋記念館を拠点として開催している子どもから大人向けの将棋教室や企画展などの内容をさらに充実させ、大山将棋記念館の活性化とあわせた全国将棋祭り関連事業を展開する必要があります。

阿光坊手づくり古墳館の運営

阿光坊古墳群ガイダンス施設（常設展示施設）建設の方向であるため、オープンに合わせて事業終了します。それまでは阿光坊古墳群保存会によって順調に運営されているため現状維持します。あわせて、ガイダンス施設の管理運営方法を保存会や地域住民とともに検討する必要があります。

< 方向性 >

- 生涯学習活動の拠点施設である公民館、図書館、みなくる館、大山将棋記念館の機能と連携強化を図るため、社会潮流や住民ニーズに対応した施設のあり方について検討を進めるとともに、維持管理や必要に応じた改修等を実施し、適切な施設運営に努めます。
- 阿光坊古墳群ガイダンス施設の管理運営について、行政と地域住民等の協働による体制を構築し、魅力ある施設運営をめざします。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①住民ニーズに対応した施設の運営	◎公民館機能の充実	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	◎図書館機能の充実	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	◎みなくる館の活用	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	◎大山将棋記念館の運営	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	創作の家の運営	→	→	→	→	→
	町民交流センター(小ホール)の活用	→	→	→	→	→
	民具ふれあい館の運営	→	→	→	→	→
	阿光坊手づくり古墳館の運営	→	→			
	◎阿光坊古墳群ガイダンス施設の運営			➡	➡	➡

※展開内容：→…継続実施 ➡…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針1 豊かな人間性を育む生涯学習の推進

重点目標1-3 学習成果の発表と活用

< 現状と課題 >

生涯学習フェスティバル

「町民の融和」を大きな目標に、町民参加型イベントとして生涯学習情報の提供・交流の場として定着してきています。また、活動紹介や作品展示、舞台発表などの日頃の活動成果の発表によって町民一人ひとりの文化活動に対する意欲向上に大きく繋がっています。また、参加者、関係者からも「みんなで一緒に作り上げるイベント」という意識を感じさせるようなコメントをいただいていることから、効果は着実に得られ、前進していることが感じられます。運営についても、行政だけで切り盛りすることなく、文化協会をはじめとするイベント関係者の積極的な参加、かわりがあることそのものであり、理想的な町民参加・参画型イベントができつつあるといえます。スタッフの負担などから参加できない団体も見受けられますが、生涯学習の集大成であるこのイベントの位置づけを各団体で再認識し、参加してもらうように働きかけることが重要です。また、公民館事業の位置づけではあるが、学習成果の発表として、北公民館利用団体が中心となって北公民館文化祭を開催している。各団体が主体的に運営し、地域に定着しており、今後も自主運営に配慮しながら適切に支援することが必要です。

< 方向性 >

○子どもから高齢者まで多数の参加者が集う「生涯学習フェスティバル」は、学習成果発表の場でもあり、関係団体、参加者、来場者が一体となって創意と工夫をこらし、生涯学習の一大イベントとして、まちづくり・人づくりにつながる取り組みを実施します。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①生涯学習イベント等の活性化	◎生涯学習フェスティバル	→	→	→	→	→
	子どもフェスティバル	→	→	→	→	→

※展開内容：→…継続実施 →…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針2 青少年の健全育成

重点目標2-1 健全育成活動等の推進

< 現状と課題 >

子ども会育成連合会

子ども会育成連合会への指導助言や事務局へのサポートを行なったことにより、細部に亘った単位子ども会との連携や、お互いの情報共有に役立つことができました。しかし、役員が中心となり活動しているものの、各単位会では少子化による会員の減少の他、子ども会に加入しない児童・生徒等が増加し、単位会を廃止・休止するなど、子どもの参加機会や活動機会が失われつつあります。子ども会での体験・研修活動は、リーダー養成のほかに、感謝や思いやりの気持ち、自立しようとする気持ちを強く持てる子どもに育てていきたいというねらいもあり、子ども会に対する親の理解度を高めていく必要があります。

成人式

平成21年度から成人の日の前日（日曜日）に開催しており、祝賀会での百石高校によるビューフェは、他の町では行っていない特色あるものであり大変好評を得ています。また、平成23年度より障害者の新成人へのお祝いとして、希望者の自宅へ訪問し、記念写真撮影と記念品を贈呈しています。式の運営については、実行委員会形式をとれず、ボランティアスタッフを一般募集するなど、運営スタッフや団体の確保が重要となっています。

青少年育成町民会議

生徒指導連絡協議会や連合PTA等と連携を図り、危険箇所への看板設置や町内小学校付近の横断歩道手旗設置を行いました。大型ショッピングセンターでの夏・冬巡回指導については、それぞれの団体から理解を得ながら日程調整したことで、巡回活動、日数に幅を持たせることができました。総会及び町民大会での講演会では、青少年に関わる身近な課題や講師自身の体験談等を題材にした内容で、参加者からは大変参考になったとの声が多く、引き続き、声かけ運動による巡回指導を始め、子育てに直面している親へ学習参加の呼びかけを粘り強く継続していくことが必要です。また、近年、団体により活動参加への温度差もありますが、関係機関等と密接な連携を図り活動を推進する必要があります。

< 方向性 >

- 青少年の自立のため、保護者に対する教育を推進するとともに、体験学習などを通じて青少年の自立心の醸成と、他人を思いやる心や道徳心の養成を図ります。
- 地域の将来を担う青少年が、大人としての自覚と責任を新たにし、また、成人としての第1歩を力強く踏み出し自立していけるよう、引き続き地域の関係者・関係機関が協力して成人式を開催します。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①青少年育成の推進	子ども会育成連合会	→	→	→	→	→
	成人式	→	→	→	→	→
②関係機関等との連携強化	青少年育成町民会議	→	→	→	→	→
	青少年問題協議会	→	→	→	→	→
	連合PTA	→	→	→	→	→

※展開内容：→…継続実施 →…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針2 青少年の健全育成

重点目標2-2 安心できる地域社会の実現

< 現状と課題 >

青少年育成町民会議

青少年育成町民会議が中心となって、町内の有害図書類設置場所や状況の把握を行っています。また、適宜、町広報誌等を活用し情報提供を行っており、地道ではありますが今後も有害図書類の廃止に向けて活動を展開していく必要があります。

あいさつ運動連絡協議会

広報へのあいさつコラムの連載や、町内の幼稚園、保育園での講話を行い、あいさつの必要性やあいさつ運動の推進を呼びかけました。また、10月をあいさつ運動推進月間とし各公共施設へのぼりを設置しています。あいさつ運動に関するアンケート調査結果から、日常のあいさつ状況をよと感じる町民の割合は上昇していますが、あいさつ運動の効果を実感している町民の割合は停滞しています。あいさつ運動は、学校では徹底されてきており、今後は家庭、地域への推進を図る必要があります。

< 方向性 >

- 青少年に有害な情報の氾濫を防止するため、関係機関と連携して監視するとともに、有害情報に関する情報を提供します。
- 青少年も社会の一員として大切にされているということを認識させるため、「声かけ運動」や町が取り組んでいる「あいさつ運動」とも連携・推進を図り、「命を大切に作る心」を育みます。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①声かけ運動の推進	青少年育成町民会議	→	→	→	→	→
	あいさつ運動連絡協議会	→	→	→	→	→

※展開内容：→…継続実施 →…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針3 芸術文化活動の推進

重点目標3-1 個性あふれる芸術文化の創造と継承

< 現状と課題 >

芸術文化鑑賞事業

中央の優れた芸術を目に焼きつけ、自分もやってみたい、将来アーティストや俳優になりたい等、子どもたちの夢や目標につながる貴重な機会を提供することができ、学校現場からの要望や関心も高い状況です。しかし、平成26年度から芸術文化鑑賞事業の予算が一部縮減され、その対応方法として協議・検討した結果、一般向け鑑賞事業「音楽の夕べ」を他の事業と統合・再編することとしましたが、小・中学校向けの鑑賞事業については可能な限り現状を維持する必要があります。そのためにも、事業実施後の各校、各クラスの担任教諭が、公演内容をどのように授業に活かしていくかが重要になると考えられます。

< 方向性 >

○個性あふれる芸術・文化活動の継承を行うため、文化活動・鑑賞機会の充実を図るとともに、文化団体の自主・自立した活動への支援と、指導者の育成及び発掘を実施します。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①文化活動・鑑賞機会の充実	小学校低、高学年芸術文化鑑賞事業	→	→	→	→	→
	中学校芸術文化鑑賞事業	→	→	→	→	→
②文化団体の支援と指導者の育成	文化に関する表彰式	→	→	→	→	→
	伝統文化親子教室 (文化庁補助事業)	→	→	→	→	→

※展開内容：→…継続実施 ➡…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➤…新規実施

基本方針3 芸術文化活動の推進

重点目標3-2 将棋によるまちづくりの推進

< 現状と課題 >

全国将棋祭り実行委員会

全国将棋祭りをはじめ、年間を通じた大会を運営するために、日本将棋連盟青森おいらせ支部の協力は不可欠であり、今後も「将棋の町」として将棋によるまちづくりを展開するためには、支部との連携を強化する必要があります。また、将棋指導者や将棋へ熱い思いのある人材の確保により、更なる将棋の普及活動と底辺拡大を図ることが必要です。

各種将棋大会

年間を通して各種大会や普及事業を実施し、参加者同士の親睦交流とレベルアップに貢献しています。また、町内の子どもたちは、将棋教室などでの成果の発表の場と位置づけ大会に参加し、段位を取得する子どももみられました。

将棋教室

子どもの将棋教室では、将棋による教育的効果を保護者から理解され、参加人数は安定しており子どもへの普及は図られています。一般町民への普及は難しいのが現状です。今後は、子どもへの普及奨励とあわせて、いかにして大人へ将棋を浸透させていけるかが課題です。

< 方向性 >

○次代を担う子どもたちが、将棋を通して「考える力」「コミュニケーション力」「精神力」を養えるように普及推進とPRを図り、人材育成に努めます。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①将棋の普及と人材育成	◎全国将棋祭り実行委員会	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	◎全国将棋祭り	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒
	各種将棋大会	→	→	→	→	→
	◎将棋教室	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

※展開内容：→…継続実施 →…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針4 文化財の保存・継承・活用

重点目標4-1 文化財の保護と活用

< 現状と課題 >

史跡の整備

史跡阿光坊古墳群の整備が平成22年度から始まり、整備基本計画に基づき、新設園路と墳丘復元の工事と実施設計等を行いました。阿光坊古墳群を理解してもらうため、町民に現地やてづくり古墳館へ足を運んでもらえるような施策を講じる必要があります。また、埋蔵文化財包蔵地の周知徹底を引き続き行う必要があります。

< 方向性 >

- 関係機関と連携しながら、文化財の保護・継承と活用を図ります。
- 史跡阿光坊古墳群については、保存管理計画に基づき現地整備の推進を図るとともに、貴重な資料の適切な管理・保存と情報発信のためのガイダンス施設建設を具現化し、今後の積極的な活用とPRに向けた住民との協働による取り組みを構築します。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①文化財の保護・継承・活用	文化財保護審議会	→	→	→	→	→
	文化財管理・周辺整備（巨樹の里）	→	→	→	→	→
	史跡の整備と計画的な調査	→	→	→	→	→
	文化遺産の記録・保存・活用	→	→	→	→	→
	文化財パトロール	→	→	→	→	→
②史跡阿光坊古墳群の保存・整備	史跡阿光坊古墳群	→	→	→	→	→
	◎阿光坊古墳群ガイダンス施設	➡	➡			
③住民との協働による文化財の活用	◎阿光坊古墳群保存会	⇒	⇒	⇒	⇒	⇒

※展開内容：→…継続実施 ➡…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施

基本方針4 文化財の保存・継承・活用

重点目標4-2 郷土芸能の保存と継承

< 現状と課題 >

郷土芸能保存会

各団体では、積極的にイベントに出演し町内外にアピールしているため、バス配車等の支援が今後も必要です。また、門付けをしても活動資金が集まらない中で、子どもたちが増えることにより、さらに資金難に陥っているため、補助金による支援は継続する必要があります。伝統的に継承していく郷土芸能（民俗芸能）は、後継者の育成が大きな課題であり、民俗芸能の大切さを理解してもらうための学習機会を、どのように提供していくかを考えなければなりません。

えんぶり

後継者育成のため、子どもえんぶり教室を開催しています。また、えんぶりに興味をもってもらうため、えんぶりを収録したDVDを町内全小中学校へ配布し、さらにはえんぶり見学バスツアーを開催しています。今後も、えんぶりに興味を持ってもらうためのPRを継続する必要があります。

< 方向性 >

- 郷土芸能団体と連携をとりながら、後継者育成を支援し、地域の郷土芸能を後世に継承します。
- 郷土芸能を地域に伝え継承するための発表会を開催するなど、支援していきます。

重点施策	具体的事業	今後の展開				
		27	28	29	30	31
①後継者育成と郷土芸能の継承	郷土芸能保存会	→	→	→	→	→
	えんぶり教室	→	→	→	→	→

※展開内容：→…継続実施 →…拡充実施 ⇒…見直し・再構築 ➡…新規実施